

問 春と秋の誘客増加策は

答 食・歴史文化等、滞在する価値の向上



加藤亮輔議員

【村づくり(第5次総合計画・総合戦略・観光地経営計画)について】

問 春と秋の誘客増加策として、観光地経営計画は何から始めるか。

村長 山岳景観の魅力向上と魅力的滞在空間作り、宿泊施設とスキー場の再活性化、誰でも安心して訪れ滞在できる環境整備、食や温泉、歴史・文化・芸術等、滞在する価値に取り組みます。

問 新緑と水田に投影された輝く里と紅葉の山々、白馬が魅力的な季節である。しかし、この景観を守るためには、水田畑の維持が重要。農業従業者65

歳以上の高齢化率78%、耕作面積の35%が家族耕作。今後、やりづらい所、高齢の進行、農機具の損壊で放棄地が拡大する。今、圃場整備が話し合われている深空・瑞穂、まぐる道付近、新田地域については、農家への負担金なしの事業をこれからも継続できるか。

課長 圃場整備は国が農業競争力基盤整備事業として行い、数年は続くと思われま

課長 農家の負担は求めない事を前提にしています。先日、深空、八方口、瑞穂区の農家にアンケート取っています。国の方針が崩れれば難しくなると認識しています。

問 佐野坂、岩岳スキー場の山地を使って、春に山菜、秋にキノコを栽培し、摘み取り、現地で食べるトレッキング体験を。軌道に乗れば道の駅で販売も。

課長 地域おこしからも、実現できるか模索していきたいです。食材が市場につながる事は観光にとっても重要です。

問 昨年、文化財大宮城址が破損し、山城が再認識された。村には塩島城址、一夜山等21の山城があり、貴重で歴史マニアにも魅力的な対象物だ。観光資源に活用は。

課長 経営計画でもそういった資源の掘り起こしが重要とうたっています。

問 塩島の大きな断層跡を、保存する考えは。

課長 来年度、土地を取得していききたいです。地元、県国の指定を得る等、時間はかかるが前向きに進めます。

問 観光局の移転についてどの様に考えているか。

村長 総合戦略に、道の駅建設の中に総合観光情報発信基地機能を備えることしました。それまでは現在の場所と考えています。

問 早急にお客様と直接対話できる場所に移動すべき。白馬駅前に歴史的価値のある建築物が空き家で、そこに局が移



この風景を守りたい

転すれば、観光客にも魅力的な建物であり、人の流れも変わり、文化観も上がるが。

副村長 提案は駐車場等の問題があるが、前向きに検討します。

問 予算の内容を「広報はくば」で概要説明しているが、予算は一年間、どんな仕事をやるか、事業内容、金の使い道を示す物。村民に説明責任を果たしていない。村民によって関心

事が違うので、一部でなく、事業を網羅した、分かりやすい予算書の冊子を作成し、全世帯に配布を。

村長 一般会計予算をざっくりわかる、通称「ざっくりさん」をホームページで公表しています。分かりやすいよう努力しますが、冊子を作成し全戸配布することは考えていません。